



佐賀県IR資料

投資家の皆様へ 佐賀県債ご購入のすすめ

平成30年10月



佐賀県

<http://www.pref.saga.lg.jp/>



目次

1. 佐賀県の概要

佐賀県の概要P.6

2. 佐賀県の財政上の特徴

佐賀県の財政上の特徴P.9

佐賀県の健全化判断比率P.10

3. 堅実な財政運営を支える具体的取組

これまでの取組P.12

行財政運営計画2015P.13

中期投資見通しP.14

安定した税源の確保～企業誘致～ P.15

資金確保対策～P2プロジェクト～ P.17

4. 佐賀県独自の取組

子育てし大県“さが”プロジェクトP.19

ものづくり産業の振興P.20

稼げる農業の確立P.21

九州佐賀国際空港の活用P.22

外国人観光客の誘致P.23

SAGAサンライズパーク(仮称)の整備P.24

肥前さが幕末維新博覧会P.25

5. 公営企業・第三セクターの状況

公営企業会計の財務状況P.27

主な公社・第三セクターの状況P.28

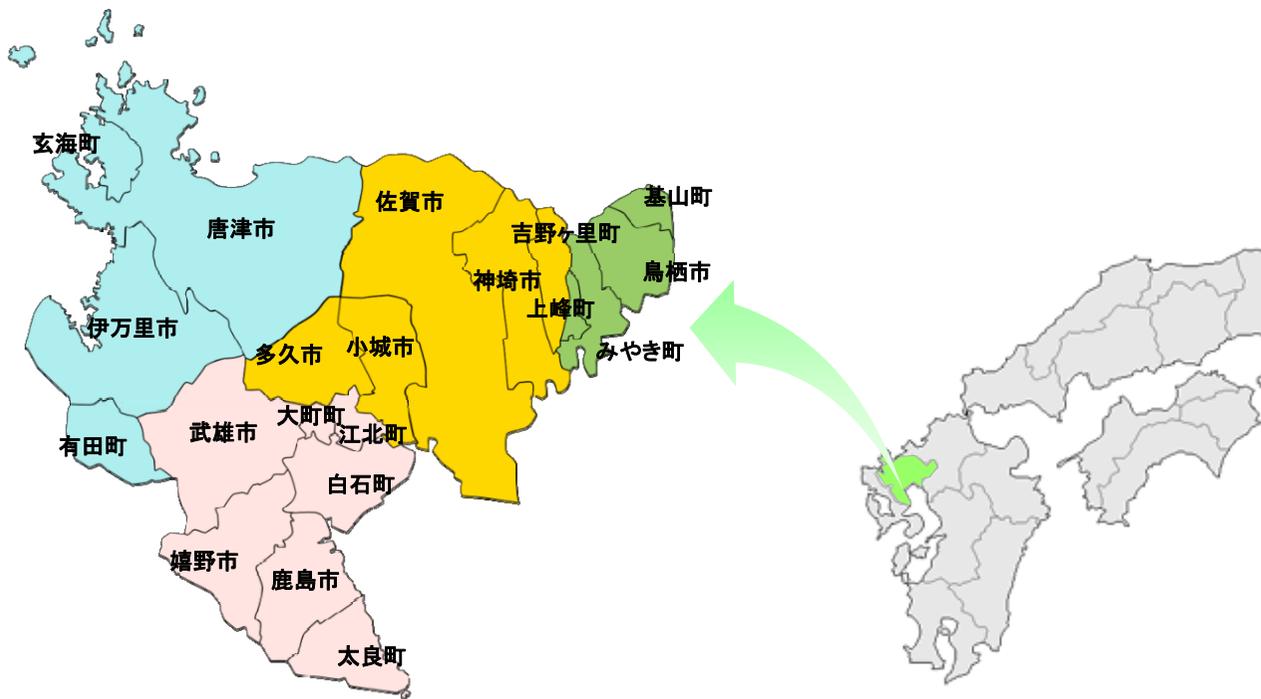
6. 佐賀県市場公募債について

発行概要等P.30

1

佐賀県の概要

佐賀県の概要



人口

82万人
【平成29年／全国第41位】

面積

2,441km²
【平成29年／全国第42位】

市町

10市10町

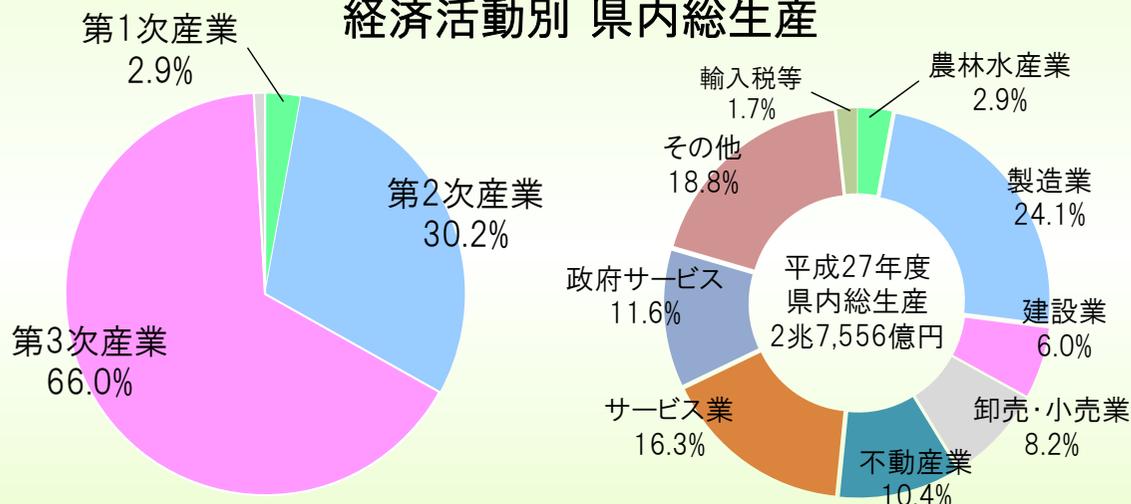
県内総生産
(名目)

2兆7,556億円
【平成27年度／全国第44位】

1人あたり
県民所得

2,412千円
【平成27年度／全国第42位】

経済活動別 県内総生産



佐賀県の全国 No. 1

- シリコンウエハ出荷額 1,200億円【全国シェア26.8%】
(表面研磨したもの)
- 板のり収穫量 19億8,789万枚【全国シェア25.5%】
- ハウスみかん収穫量 6,990t【全国シェア34.6%】
- 電子黒板のある学校の割合 100%【全国平均79.5%】
- 宝くじ高額当選金(100万円以上)
当せん発生率 全国1位

佐賀県の概要



空港

佐賀県は、九州の北西部に位置し、中国や韓国などと近い距離にあります。

九州佐賀国際空港から、国際線として、上海便(週3往復)ソウル便(毎日往復)、台北便(週2往復)が運航しており、九州におけるゲートウェイ空港としての地位確立を目指しています。

鉄道

長崎本線と鹿児島本線が通るほか、2011年の九州新幹線鹿児島ルートの開業により、本州及び九州内の主要都市への移動もスムーズになっています。

新幹線 (最速) 新鳥栖⇄	博多	12分
	鹿児島中央	1時間11分
	広島	1時間19分
	新大阪	2時間47分

※山陽・九州直通新幹線「さくら」利用の場合

高速道路

九州を南北に貫く九州自動車道と、東西に走る長崎・大分自動車道のクロスポイント「鳥栖JCT」を有し、福岡県、長崎県、熊本県は1時間圏内、九州全域、中国地方までは3時間圏内です。

	佐賀市	鳥栖市
福岡市	70分	44分
長崎市	88分	96分
熊本市	99分	75分
大分市	141分	117分
鹿児島市	210分	184分

※2018年7月現在 高速道路利用

2

佐賀県の財政上の特徴

佐賀県の財政上の特徴

地方公共団体の財政力を示す財政力指数は平均より低い

H27	H28	H29	備考
0.329 (0.480)	0.341 (0.492)	0.348	()は東京都除く 道府県平均

その中で、堅実な財政運営を着実にやっている結果

財政構造の弾力性を示す経常収支比率は
都道府県中第8位(H28)

H27	H28	H29	備考
92.2(95.3)	93.4(96.7)	93.3	()は東京除く道 府県平均

県債残高(臨財債除く)は16年連続減少
(ピーク:5,644億円(H13))

H27	H28	H29
3,972億円	3,906億円	3,852億円

地方債の償還期間を20年とし、将来世代の負担が過度に
ならないようコントロールすることなどにより、将来負担比率は
都道府県中第4位(H28) ※H29速報 第4位

H27	H28	H29	備考
106.6(197.7)	107.1(173.4)	112.2	()は東京除く道 府県平均

臨財債を除くいわゆるプライマリーバランスは
H13以降黒字を維持

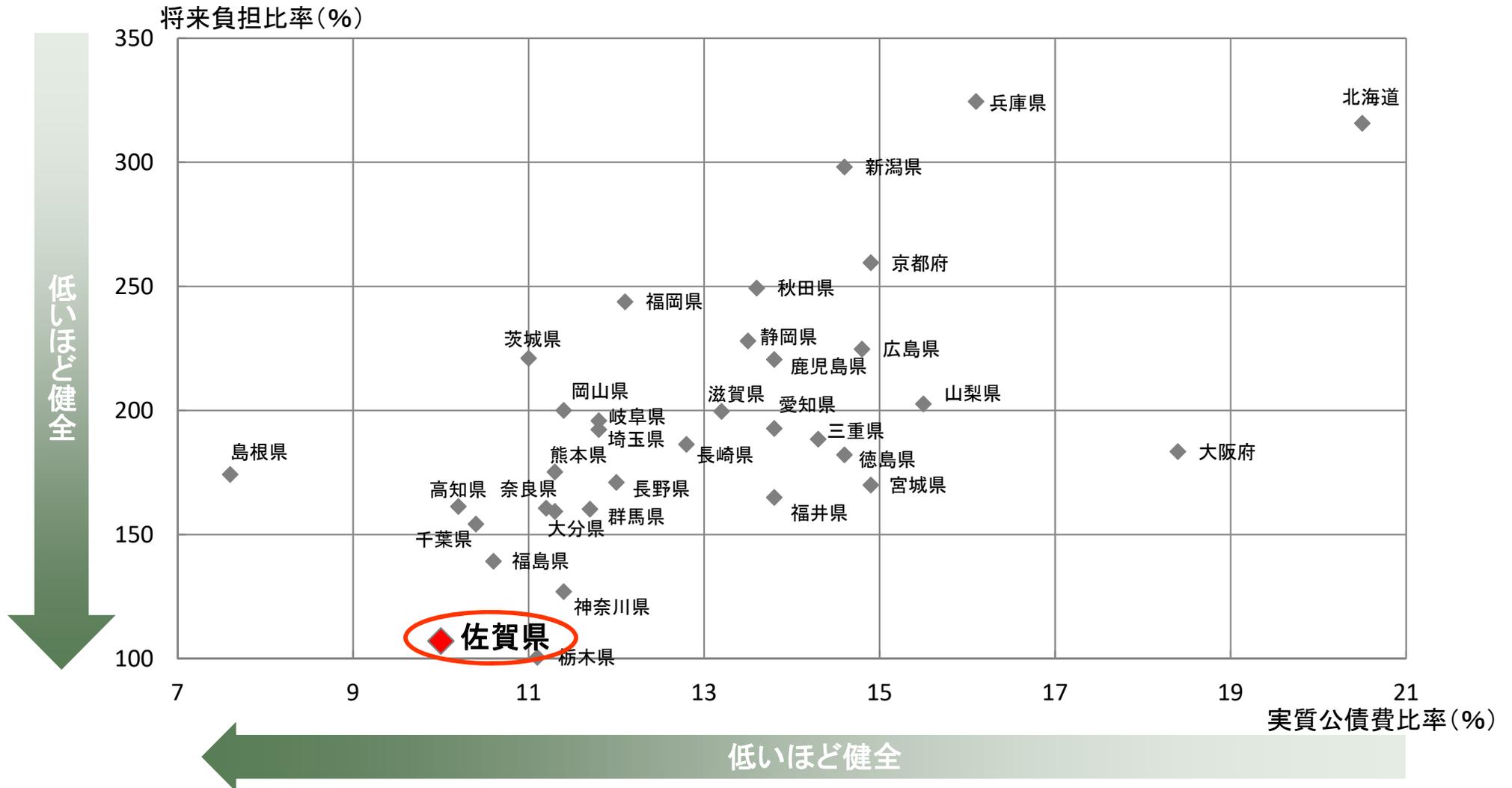
(単位:億円)

	H27	H28	H29
臨財債除く	140	95	78
臨財債含む	103	105	108

健全な財政状況を確保

■ 健全化判断比率の全国的なポジション(平成28年度決算)

本県は全国型市場公募地方債を発行している道府県34団体の中でも、健全な財政状況となっています。



3

堅実な財政運営を支える具体的取組

これまでの取組

行財政改革緊急プログラム

(計画期間:H16~H20年度)(H16. 10月策定)

<H19. 11月>

行財政改革緊急プログラム ver.2.0 策定

(計画期間:平成19年度~22年度)

<H21. 2月>

行財政改革緊急プログラム ver.2.1(改訂)

【基金残高目標】
107億円程度

平成16年度の地方交付税大幅削減(地財ショック)を契機に策定

『緊プロ』実績

- ◆ 各取組の成果 { 職員数の削減△522人
職員給与の削減約77.9億円 等
- ◆ 地方交付税の増
- ◆ 県税収入の見込増

当初『緊プロ』の
目標を達成

(単位:億円)

	H19	H20	H21	H22
収支不足額	△82	△6	△51	0
基金残高	152	164	131	158

行財政運営計画2011

(計画期間: H23~H26年度)

【基金残高目標】
124億円程度

策定時の見通しを上回る残高を確保

(単位:億円)

	H23	H24	H25	H26
収支不足額	0	△32	△36	△23
財源調整用 基金残高	188	190	175	175

『行財政改革緊急プログラム』により一定の健全化が図られたが、社会保障関係経費の自然増などによる収支不足に対応し、堅実な行財政運営に取り組むため策定

実績

行財政運営計画2015(H27~H30年度)

これまでの取組みにより一定の健全化が図られていますが、依然として高い水準の公債費負担や社会保障関係経費の増加などに対応するため、引き続き、堅実な行財政運営に取り組みます。

財政運営

1. 事業の選択と集中
 - ・多様な主体による施策の推進
2. 施策達成のための財源確保
 - ・増収推進
3. 将来を見据えた財政運営
 - ・公債費負担の平準化及び資金調達コストの縮減
 - ・社会資本等整備に係る中期投資見通しの設定

行政運営

1. 地域を応援する取組
 - ・県民が主役の地域づくり・県と市町の連携強化
2. 人材育成・組織風土
 - ・職員研修の充実・女性職員の活躍推進
3. 効率的・効果的な行政運営
 - ・業務改革等の推進
4. 地方分権の推進
5. 情報の利活用と管理

収支改善対策 (H27~H30)

財源対策		金額
歳出抑制	投資的経費の抑制(計画期間中の投資額総額を770→731億円に圧縮)	約145億円
増収	県有地売却、税徴収増 等	約15億円
財政的工夫	退職手当基金の活用	約40億円
合計		約200億円

平成27年度以降の収支見通し

(単位:億円)

(対策前)	H27	H28	H29	H30
収支不足額	△99	△75	△108	△117
財源調整用 基金残高	117	82	15	△61
↓				
(対策後)	H27	H28	H29	H30
収支不足額	△60	△37	△69	△37
財源調整用 基金残高	156	159	131	135

基金枯渇

社会資本等整備に係る中期投資見通しの設定

平成27年度に策定した総合計画のもと、「中期投資見通し」を設定し、投資的経費の歳出抑制を図るとともに、計画的な執行をしています。

※平成27～30年度の投資額の総額を2,950億円に設定。

イメージ図



安定した税源の確保<企業誘致>

立地における佐賀県の強み

3 Point + α

交通

抜群の交通アクセス

- ・九州のクロスポイント
- ・アジアに開かれた空港、港湾



BCP

災害が少ない

- ・南海トラフ巨大地震による政府想定被害ゼロ
- ・自然災害が極めて少ない

人財

人財・雇用

- ・人づくりのDNA
- ・実直で勤勉な県民性
例：進出企業からの評価
「離職率が低く、真面目」



+ α

安心の立地環境・支援体制

- ・安価な地価、賃料、ワンコインリース
- ・全国トップクラスの優遇制度
- ・パーマナントスタッフ制度

安定した税源の確保<企業誘致>

誘致活動の状況等

抜群の交通アクセスを活かした誘致活動

- 「新産業集積エリア唐津」「新武雄工業団地(仮称)」の整備
- 「ポラテック西日本」「ピックルスコーポレーション」など



優秀な人財、自然災害リスクの少なさ(BCP対策)等を活かした誘致活動

- 「Cygames」「損保ジャパン日本興亜」「フォーバル」など



今後成長が期待される「自動車・航空機関連産業」の誘致

- すべり軸受世界トップメーカー「大同メタル工業」



誘致実績

- H29年度実績: 20社、新規地元雇用 1,011人

取組方針

今後も成長が見込まれる分野、佐賀県に強み・素地がある分野

- 化粧品関連産業 ●医療関連産業 ●ロボット関連産業
- 自動車・航空機関連産業 ●半導体関連産業



左記分野を中心とした製造業に加えて、「IT関連、BPO関連等の事務系企業」や「本社機能」等の誘致にも重点的に取り組む

資金確保対策＜P²プロジェクトの推進＞

P²プロジェクト（フィランソロフィー・プログラム・プロジェクト）とは

P²プロジェクトは、多くの民間企業等が社会貢献活動の一環として実施している助成事業の資金を獲得し、財源を確保することにより、各種事業を充実させ、佐賀県を元気にすることを目指しています。

H28、29、30年度の実績

年度	採択件数	金額	事業例	助成団体
H28	7件	60,238 千円	・佐賀県総合運動場球技場改修事業 (38,400千円)	(独)日本スポーツ振興センター
H29	7件	133,589 千円	・佐賀県総合運動場陸上競技場補助 競技場改修事業(100,000千円) ・多目的得点板購入(4,800千円)	(独)日本スポーツ振興センター
H30	8件	50,994 千円	・佐賀県総合運動場庭球場改修事業 (30,000千円)	(独)日本スポーツ振興センター

※H30年度は、9月末時点の採択実績。



多目的得点板購入



佐賀県総合運動場
陸上競技場補助競技場改修事業

4

佐賀県独自の取組



子育てし大県“さが”プロジェクト

結婚、出産、子育ての希望がかなう環境を整え、「佐賀で子育てがしたい」と思われるような佐賀県づくりを推進するプロジェクトに取り組んでいます。

年少(15歳未満)人口割合
13.7% 全国3位!



<取り組んでいる主な事業>

出会いの創造 (結婚支援等)

- ◆縁カウンターさが事業
- ◆若者向けライフデザイン事業 等



子育て世帯に寄り添う支援 (保育サービス/母子医療・福祉等)

- ◆小児慢性特定疾病児童等レスパイト訪問看護事業
- ◆子どもの居場所拡大事業 等



安心して子どもを産める環境づくり (不妊治療支援等)

- ◆不妊治療支援事業
- ◆はじめまして赤ちゃん応援事業 等



楽しく子育てができる環境づくり (地域での子育て活動等)

- ◆子育てタクシー推進事業
- ◆子育てし大県“さが”「すまいる」支援事業 等



佐賀県子育て支援キャラクター
「さがっぴい」

ワークライフバランスの実現

- ◆「マイナス1歳」からのイクカジ推進事業 等

佐賀の強みは、ものづくりとひとづくり

幕末の佐賀藩で最先端技術を研究していた「精煉方」のように、佐賀では古くからものづくり・人づくりに力を入れてきました。そうしたものづくり佐賀を再興するため、これまで以上に技能・技術を持つ人が尊敬され、若者が誇りと自信を持ち、ものづくりに従事する社会を実現し、県内ものづくり産業の振興を図ります。

ものづくり人財創造基金(10億円) 平成27年度～平成30年度

ものづくり人財の育成



在職者・高校生向けの溶接人材の育成

工業高校等のものでづくりカリキュラムの充実等



企業力の向上



ものづくり技術等の企業への研究開発・磨き上げ支援

生産工程の改善支援等



ものづくりを再評価する機運の醸成



マスメディアによるものづくり現場の魅力発信

県内ものづくり企業の製品展示等



稼げる農業の確立

佐賀県では、佐賀牛やハウスみかん、さがびより(米)、さがほのか(いちご)など「本物」と呼べる優れた農産物が数多く生産されています。今後、更に農家の所得向上が図られるよう、「うること」や「つくること」、「経営・人づくり」などについて、これまで以上に工夫を凝らすなど磨き上げを行い、高品質化や低コスト化はもとより、付加価値を高める取組を進めています。

<将来を見据え、特に力を入れて取り組んでいること>

“農の夢”応援プロジェクト

将来の佐賀農業を牽引する担い手の育成



トレーニングファームのモデル整備等 (H29に2か所、H30に2か所)

園芸農業における革新的技術等の開発・普及

佐賀の園芸農業の持続的な発展



統合環境制御技術の開発・普及等



「佐賀牛」の産地基盤の強化と輸出の促進

「佐賀牛」産地の持続的な発展



キャトルステーションの整備促進等

日本一の“水田フル活用”の促進

全国トップレベルの生産性の高い水田農業の展開



低コスト生産に向けた新技術の導入等

“さが農村の磨き上げ” 農村ビジネスの創出

中山間地域等の農家所得の確保と農村の活性化



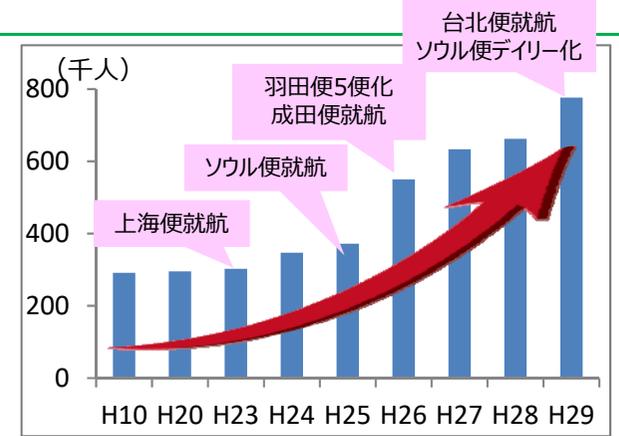
農家レストランや体験農園など農村ビジネスの創出

九州佐賀国際空港の活用

LCCの拠点空港として着実に発展しています

佐賀空港は、平成28年1月に愛称を「九州佐賀国際空港」に改め、九州のゲートウェイ空港を目指し利用促進に取り組んでいます。

※平成29年度の利用者数は**過去最高の77万6千人**(前年度比17.2%増) 5年連続で過去最高を更新！



■資料内の便数は、冬ダイヤ以降(2018.10.28～)

東京(羽田)便	成田便	上海(浦東)便	ソウル(仁川)便	台北(桃園)便	夜間貨物便
					
便数 1日5往復	便数 1日1往復	便数 週3往復 (月・水・土曜)	便数 1日1往復	便数 週2往復 (木・日曜)	便数 週5往復 (火～土曜)
運航会社 全日空	運航会社 春秋航空日本	運航会社 春秋航空	運航会社 ティーウェイ航空	運航会社 タイガーエア台湾	運航会社 全日空

九州におけるゲートウェイ空港としての地位確立をめざします

平成27年9月、「佐賀空港がめざす将来像」(平成36年度末)を策定し、取組を進めています

目標

基幹路線である東京(羽田)便を中心としながら、LCC拠点空港化が進み、九州におけるゲートウェイ空港としての地位を確立

具体的取組・目標

- ✦国内線：国内ハブ空港との路線を強化
[目標]4路線・1日12往復 [現状]2路線・1日6往復(2018年冬ダイヤ)
- ✦国際線：アジア地域のハブ空港との路線を強化
[目標]5路線・週23往復 [現状]3路線・週12往復(2018年冬ダイヤ)
- ✦受入体制：空港施設の機能強化
[取組内容]駐機場や旅客ビルの拡張、滑走路延長計画



外国人観光客の誘致

海外からの観光客を増やすため、県独自のセールスプロモーション、相手国の特性に応じた情報発信、Wi-Fiや多言語コールセンター・多言語観光アプリといった受入環境の整備など、外国人観光客の誘致に積極的に取り組んでいます。佐賀空港へソウル便デイリー化や台北チャーター便の就航などもあり、特に韓国や台湾のからの宿泊者が、特に大きな伸びを見せています。



外国人宿泊観光客(国別)の対前年比較



韓国、台湾からの観光客が大きく増加！

2018年の明治維新150年を経て、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを迎えるに当たり、平成29年6月には「佐賀さいこう！た・びジョン」を策定し、県民一丸となって「観光」に取り組んでいます。
(※平成29年までの過去3年間の外国人宿泊観光客の伸び率は、全国トップとなっています。)

SAGAサンライズパーク(仮称)の整備

国スポ・全障スポの開催を契機とした施設整備

国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催を契機として、県民の夢や感動を生み出すスポーツの一大拠点の形成を図るとともに、スポーツをはじめとしたさまざまな活動を通じて、地域の活力を生み出し、新たな佐賀県の未来を切り拓く「さが躍動」の象徴的エリアとなることを目指しています。

※SAGAサンライズパークとは、所在する「佐賀市日の出」という地名にちなんだ名称です。(総合運動場・総合体育館エリアを一体的に呼称)



SAGAサンライズパークの整備イメージ

整備の基本的な考え方と主な施設計画

整備の基本的な考え方

1 県有スポーツ施設としてのあるべき機能・設備を備えた施設

① スポーツを楽しむ環境を整える

する

② 競技力の向上を支援する環境を整える

育てる

③ スポーツツーリズムを推進できる環境を整える

観る

2 支える側も楽しめる施設

支える

3 多目的な利用ができる施設

憩い、にぎわう

SAGAアリーナ(仮称)

メインアリーナは、約8,000席の観客席



◆バレーボール、バスケットボール等のプロの試合やコンサート等のイベントが開催可能な多目的アリーナの整備

水泳場

国際基準の50mプール



◆競泳、水球、アーティスティックスイミングが競技可能な屋内50mプールと飛込競技を行う飛込みプールを整備

今年2018年は、明治維新から150年。これを機に、佐賀の「技」及び「人」を顕彰することで、県民の皆さんに郷土への誇りと自信を持っていただくこと、そして佐賀の偉人たちの「志」を今に活かし、未来に繋いでいくことを目的とし、「肥前さが幕末維新博覧会」を開催しています。

9月30日時点で、博覧会全体で約142万人が来場し、大変好評を得ています。

会期 2018年3月17日(土)～2019年1月14日(月・祝)

会場 佐賀市城内エリアを中心に県内全域で開催中



メインパビリオン

幕末維新記念館
(市村記念体育館/佐賀市)



佐賀市城内エリアの市村記念体育館内に展示場を整備。幕末・維新时期の佐賀の偉業や偉人などを最新の映像技術等によりダイナミックに紹介。

テーマ館

葉隠みらい館-HAGAKURE MIRAIKAN-
(旧三省銀行/佐賀市)



江戸時代の武士の心得を表した佐賀発祥の『葉隠』。現代に生きる『葉隠』を知り、体験することで、自らがより良く生きる“意志”を発見するテーマ館です。

リアル弘道館
(旧古賀家/佐賀市)



大隈重信、江藤新平など、近代日本の形成に貢献した人物を多数輩出した藩校「弘道館」について知るためのテーマ館です。

5

公営企業・第三セクターの状況

公営企業会計の財務状況

公営企業(病院事業、工業用水道、産業用地、港湾整備)は、資金不足は生じておらず、健全な経営状況となっております。

(単位:百万円)

会計名	総収入 A	総費用 B	純損益 C (A-B)	資金 剰余額 (不足額)	他会計 からの 繰入金	企業債 (地方債) 現在高
佐賀県医療センター好生館 貸付金特別会計※1	13	13	0			665
佐賀県工業用水道 事業会計	389	379	10	2,013		
佐賀県産業用地 造成事業特別会計	221	221	0	545	110	
佐賀県港湾整備 事業特別会計	371	406	▲35	671		3,365

※1佐賀県立医療センター好生館貸付金特別会計は、公営企業会計分のみ記載(普通企業会計分は除く)

公社・第三セクターの状況

公社の状況

土地開発公社及び道路公社は、いずれも健全に運営されています。

(単位:百万円)

	土地開発公社			道路公社		
	H27	H28	H29	H27	H28	H29
貸借対照表						
資産	1,684	1,661	1,671	28,283	28,075	28,215
負債	67	39	42	18,393	18,185	18,325
資本	1,617	1,622	1,630	9,890	9,890	9,890
損益計算書						
経常損益	△3	5	7	490	466	620
当期損益	△3	5	8	490	466	620

第三セクターの状況

第三セクターについては、半数以上の団体の運営状況は特段問題ないものと認識しておりますが、一部、赤字団体等においては、それぞれ事業の見直しや経営改善に向けた取り組みを進められており、県としても必要な関与を行いながら注視しています。

(単位:百万円)

	経常損益	純資産又は正味資産	県からの出資金	県からの補助金
全団体 (34団体)	65	47,885	15,548	2,351
赤字団体 (14団体)	△625	19,971	6,470	1,951

6

佐賀県市場公募債について

『最後に』

佐賀県は、堅実な財政運営に努めている結果、健全な財政状況を確保しております！
ぜひ、佐賀県債のご購入を！

市場公募債のH30年度発行計画

発行額	100億円
償還年限	10年(満期一括)
条件決定日	平成30年11月7日
発行日	平成30年11月30日
個人向販売	野村證券(株) SMBC日興証券(株)、大和証券(株)

シ団構成メンバー

金融機関名	シェア	証券会社名	シェア
(株)佐賀銀行	20.0	野村證券(株)	14.0
(株)みずほ銀行	19.0	SMBC日興証券(株)	11.0
(株)佐賀共栄銀行	2.0	大和証券(株)	11.0
佐賀信用金庫	1.0	みずほ証券(株)	8.0
唐津信用金庫	1.0	三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)	5.0
伊万里信用金庫	1.0	岡三証券(株)	1.0
九州ひぜん信用金庫	1.0	しんきん証券(株)	1.0
(株)あおぞら銀行	1.0	東海東京証券(株)	1.0
(株)新生銀行	1.0		
(株)三井住友銀行	1.0		

**健全な財政状況を確保している
佐賀県の県債です。
ぜひ、ご購入ください。**

お問い合わせ先

佐賀県 総務部 財政課 公債担当

〒840-8570 佐賀県 佐賀市 城内 1-1-59

TEL : 0952-25-7013 FAX : 0952-25-7292

✉ zaisei@pref.saga.lg.jp